

# 光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2017年6月号>

123号 2017.06.01 配信

4月から新生活、新部署あるいは新しい事をスタートされた皆さまには、その様々な変化に慣れた頃でしょうか。梅雨入りも間近になり、身体のだるさ、緊張や不安はありませんか。心と身体の状態を今一度チェックしてみましょう。

## ■同窓会だより

### ◆『第44回 光葉同窓会総会』を開催しました。

5月21日（日）10：00～14：00、学園本部館大会議室で来賓並びに恩師23名、同窓生196名が参加しました。

総会に先立ち20日（土）には、全国支部長会を学士会館で開き、全国51支部の支部長（代理含む）らが参集し、意見交換と親交を深める場となりました。

### <第1部 総会>

坂東眞理子理事長・総長は、「今年大学は国際学部、食安全マネジメント学科、言語聴覚士コースなど新しい学部、学科、コースをスタートさせ、多くの受験生が集まった。現在、『自分から一步踏み出す女性』を目指して、積極的な学生が増えたと感じている。今後、現役学生と同窓生の交流をより深め、様々の形で輝くロールモデルを示していただきたい」と話されました。

また金子朝子学長からは、「社会の急速な変化や厳しい状況にも対応する『21世紀を生き抜く力』の養成に繋がる教育を発展させていきたい。来年、グローバルビジネス学部、会計ファイナンス学科も新設される。今後も建学の精神の下、これまでの本学における教育の本質を忘れずに、新しい視点から時代の要請に応じて大学を特徴づけていく必要がある。」と抱負を述べられました。

<第2部 本学名誉教授の加藤澄江氏と歌人の馬場あき子氏による対談> -青春を語る-  
スクリーンには、戦前から戦後、お二人が過ごされた学生時代（1940年代）の学園写真と馬場氏が詠まれた歌が映されました。

- ・昭和とは何であったか 国家とは何を強ひたか 焼けた桜よ
- ・歌舞伎座は閉鎖されたり 少女われ昼夜なく交替し 兵器作りみき

（二首抜粋）

制服にまつわる楽しいエピソードに始まり、学生による渾身の文芸会や観劇、美術館見学など「教養を高めることを大切にされた学校であった」と回想されました。こうした教えの伝授は将来に繋がり、戦時中、友人から口伝えされた長唄なども辛い旋盤作業を乗り越えるために「どんな時でも伝授されたことが生きる」と馬場氏は強調されました。加藤氏は、上高田の女学校時代より人見圓吉先生、楠郎先生、榎子先生と三代に及ぶ建

学の精神に触れ「わが人生、悔いなし」と語られました。

お二人ともに、人生をかけて取り組まれたものがあり、精進を重ねてこられた道筋が感じられました。学生時代を過ごされた厳しい戦時下でも、ささやかな楽しみを見つける柔軟性と学びに対する想いが、卒業後の生き方に繋がっていると思われまます。

### <第3部 懇親会>

始めに比護和子会長から「同窓会は、同窓生の絆があってこそのものである。今年も東京に念願の新支部が発足したが、積極的な支部活動や支部間の交流がさらに深まることを願っている。今後とも大学と連携しながら、同窓会活動の活性化を目指していきたい。」と挨拶がありました。

各テーブルでは、ご来賓、恩師の先生方と同窓生が歓談し、ランチタイムを楽しみながら、笑顔が溢れました。その後全員で「大きな栗の樹の下で」を輪唱し、「ふるさと」の大合唱。そして祝歌（第二校歌）も「ああ97年（きゅうじゅうしちねん）」と歌いあげました。「2018年の総会は、新潟で会いましょう」と会長の呼び掛けとともに、本年度総会が終了しました。 (文責：松本)

### ◆光葉同窓会生涯学習

文学散歩 東京の路地を歩く — 谷中・上野桜木 —

日 時 2017年6月8日（木）10時30分から13時

講 師 太田 鈴子（昭和女子大学文学研究科特任教授）

### ■学園だより

○6月18日（日） 第2回オープンキャンパスが開催されます。（10：00～15：00）

推薦入試をお考えの方は、ぜひご参加ください。

○本学の十年間に亘るキャリア教育とグローバル化への取り組みが評価され、日経産業新聞に紹介されました。（2017.04.17） —志願者数は、10年で倍増—

象徴的なのが2013年に開設されたグローバルビジネス学部である。国際学部（新設）と共に米留学が必須で、きめの細かい語学教育とTOEIC等の明確な目標設定が行われている。また、資格取得を念頭に2018年には「会計ファイナンス学科」が新設予定で、「情報ビジネスコース」を設ける準備も進行中である。（記事より）

#### 梅雨の時期は、注意！

室内のカビが最も増殖する時期であり、特にアスペルギルス・フミガタスは危険なアレルゲンとされています。喘息、肺炎などアレルギー症状を引き起こし、最悪の場合、呼吸不全で死に至ることもあります。浴室、洗濯槽、エアコンなどを乾燥させ、栄養となる食品、繊維、ほこりの除去に努めましょう。家具を壁から少し離すことも効果的です。

予防の三原則は、①乾燥させる ②低温にする ③栄養を絶つ

## ■広げよう光の葉

安孫子 淑子さん

文家政学部生活科学科 1971 年卒 (世田谷支部)

### 誰かのために、何かの役にたつ

厳格な父が「病弱なお母さんの手助けをすること」を進学の条件としたので「しつけに厳しく家から近い」昭和女子大学に入学しました。大学では、栄養士と中学・高校の教員の資格を取りました。栄養士の資格取得のための実習では、医療センターに赴き、病院の先生方の食事をはじめ、減塩食や糖尿病の方の食事、赤ちゃんの離乳食などを作りました。調理の仕事は、けっこう過酷です。病院や会社の食堂では、大人数の調理をしますので、鍋は大きく、かき回すにもかなりの力が必要です。また、当時、食堂の調理士さんはベテランの男性が多く、若い娘が栄養士としていくと「ちゃんとできるのか」と心配されていたようです。調理実習の時、卵焼きを一人で全部作るように指示され「卵は片手で割るんだ」と家庭の何十倍もある調理器具で大きな大きな卵焼きを作りました。もちろん作ることはできましたが、若い女性が働くにはたいへんな職場だと思いました。

卒論は、当時「キノコ博士」という愛称で呼ばれていた澤田先生のご指導を受けました。「耐火建築の建材について」という「食」とはまったく違ったテーマでしたが、そのご縁で新日鐵に就職しました。資金課に配属されたので入社してからそろばんを学び直したり、簿記の勉強をしました。経理の仕事は数字に間違いがあつてはいけませんし、何よりも信頼・信用がなければできないことなので、とにかく一生懸命に仕事を覚え、正確で迅速な処理をしようと夢中でした。お給料をもらって働いた時期は短かったのですが「誰かのためになること」が自分のやりがいと実感することができ、それは今、数々のボランティア活動をしていることに繋がっています。現在、世田谷区の町内会の役員、老人や障害者の方のお世話をする民生委員、子供たち対象の青少年委員もやっています。さらに、消防団活動、光葉同窓会の世田谷支部長と、地域のことをトータルに考えて活動しています。

私の信条は「誰かのために、何かの役にたつ」です。子供もお年寄りも女性も学生も、この地域の方々が、安心して安全に楽しく生活できるように、私ができることをしていきたいと思っています。私自身も父の介護の時には、地域の方に「大丈夫?」「がんばってね」と声をかけていただき、誰かに見てもらっていることにとっても心強く助けられた経験があります。その恩返しをずっとしているのかもしれませんが。自分の時間がないと心配されることもあるのですが、まわりの方から「いつもありがとう」「からだこわさないでね」と声をかけていただくと疲れも吹き飛ぶものです。これからも、地域活動、同窓会活動を楽しみながら進めていきたいと思っています。

End